

◇各教科等の授業改善に向けた具体的な方策

【英語】

<p>■生徒の状況</p>	<p>(1) 真面目に授業に取り組み、各活動にも意欲的に取り組む生徒が多い。 (2) 新出の文法項目を理解し、それらを短い文で表現する知識・技能を身につけている生徒が多い。 (3) 既習事項に対する学習のつまづきから、新出の学習内容が身につかない生徒もいる。 (4) 今までの既習事項すべてを活用し、場面や状況に応じて課題解決に取り組む思考力・判断力・表現力については、課題がある生徒が多い。 (5) 各自の学習を振り返ることはできるが、振り返りをいかして学習方法の工夫を図る等の調整力を育成することが必要である。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<p>(1) 感染症拡大防止に努めながら、継続的に生徒の話す力を高める活動を工夫すること。 (2) 場面や状況等を設定し、生徒が今までの学習内容すべてを活用して課題解決に取り組む活動を計画的に設定すること。 (3) 新学習指導要領となり、例年と学習順序が異なるため、教科書とは別に前教科書を用いるなど未習の分野が出ないように、補充する活動を計画すること。 (4) 新学習指導要領のもとで指導と評価の一体化を図り、生徒にとってわかりやすい授業、評価の実施に取り組むこと。</p>
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>1 基礎学力の定着 (1) 授業のはじめには楽しく英語を使う場面（ビンゴ活動やコミュニケーション活動）を設定し、苦手意識を和らげ、楽しく意欲的な雰囲気をつくる。 (2) 言語を使用する状況・場を設定したうえで、十分なインプットを行う。 (3) 生徒にとってわかりやすい教材・教具の工夫に努める。 (4) 文法や単語についての小テストを行い、復習をする機会を図る。</p> <p>2 1を支える家庭学習の推進 (1) 小テスト・スピーキングテストなどの前には、事前学習プリントを用意して、家庭学習に意欲的に取り組めるようにする。 (2) 家庭学習としてワーク、ノートまとめ、ワークシート演習を行い、学習事項の定着を図る。</p> <p>3 授業における思考力・判断力・表現力の育成 (1) 学習内容に応じて、生徒が既習内容を活用し、自分のことや身の回りのこと、社会的事柄についてまとめた文章でライティングをする活動を継続的に設定する。 (2) 感染症防止に留意しながらスピーチやプレゼンテーション、インタビューテスト等のスピーキングの活動を計画する。 (3) リーディング活動では文法項目の内容理解に縛られず、事前に文章を読む目的を提示し、課題解決型学習を図る。</p> <p>4 3を自ら伸ばしていくための主体性の育成 (1) 単元学習、定期考査、学期末等定期的に生徒が自らの学習を振り返るワークシート等を準備し、自らの学習を振り返り、学習方法を改善する等の学びの調整力を高める。 (2) 学習内容に応じて自分の考えを伝える活動を継続的にを行い、教員は英語の正しさばかりではなく、生徒の内容にもフィードバックを行う。 (3) ペアワークやグループワークなどを効果的に取り入れ、生徒が互いに教え合い、主体的に取り組む工夫をする。</p> <p>5 ICT機器を活用した授業実践例 (1) デジタル教科書のピクチャーカードを利用し教科書本文のレシテーション（暗唱）の活動を行う。 (2) show and tell のプレゼンテーション活動では書画カメラを利用し、生徒が作ったポスター等を表示し、発表活動を行う。 (3) クロームブックでのアプリケーションを利用し、生徒が作成したものを共有する。</p> <p>6 小中一貫 (1) 新学習指導要領小学校外国語活動や小学校で使用される教科書の理解を通して、生徒の小学校時の学習内容を把握し、英語学習に対する中1ギャップを防ぐ。 (2) 学びのエリア内の互いの学校の研究授業等を通し、児童・生徒の指導について共通認識を図る。</p>